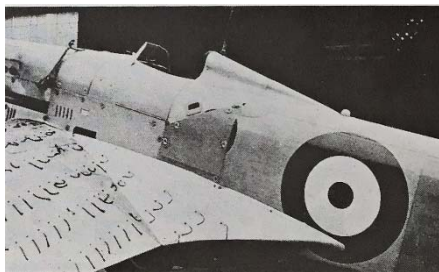


ワケ カタチには理由がある(17)

Shape follows
Function & Taste

～スーパーマリン(Supermarine)Type 224 試作戦闘機



【実験的に付けられた巨大なフェアリング↑】 出典：
「Spitfire the History」 Key Publishing



本機は、1934年に試作された、英国スーパーマリン社の試作戦闘機です。設計者はレジナルド・ミッチェル(Reginald Joseph Mitchell)。後に、英国空軍の名機、スピットファイアを設計する設計者です。ロングスパンの主翼と、折れ曲がり部の下に綺麗に成型された主脚用スパッドを取り付けた、美しい形状の飛行機でした。しかしながら、「ネズ爺&ハテニャンの特許探偵団 vol.33」で取り上げたように、逆ガル翼が災いして英国空軍の正式採用はなりませんでした。逆ガル翼は大迎角を取った際に屈折部の上面で気流を大きく乱して不安定化するためです。このため、主翼付根にフェアリングを設けてるなど、その克服に悪戦苦闘する写真が残されています。しかし、後のスピットファイアには、美しいフェアリングが付くわけですから、この機体での試行錯誤が活かされたと考えれば、無駄ではありませんでした。

【模型について】

英国のレアプレーン(Rear Plane)製 1/72 のバキュームフォームキットです。プラ板をレリーフ状にプレスして成型される、この方式のキットは、1970年代から80年代にかけて作られました。しかし、パーツの切り出しが必要で根気を必要としましたから、今ではすっかり廃れてしまいました。一方、このようなマイナーな機体が数多くキット化されたためにマイナー機ファンには歓迎されました。(中川裕幸 2021年3月, 2022年8月改定)

